

(コーディネーター)

それでは、次の事業に入ります。

事業番号 2 番、平和に関する事業について、作業に入らせていただきます。

事業内容について、要点を簡潔に 5 分程度でご説明をお願いしたいと思います。では、よろしく願いいたします。

(説明者)

平和に関する事業について、説明させていただきます。最初に、本市の平和事業に取り組む基本方針について、説明いたします。

おそれ入りますが、お手元の事業概要説明シート 13 ページの最下段の特記事項をご覧ください。

本市の特色として、第 1 に、戦前は軍需のまちと呼ばれ、3 か所の火薬砲弾などを製造する軍需工場があったことです。その一つ禁野火薬庫は、1939 年(昭和 14 年)3 月 1 日に大爆発を起こし、約 700 人もの死傷者を出しました。戦後火薬工場を再建する動きがありましたが、市民・行政・市議会が一体となった反対により、その跡地には市民のための病院と当時東洋一の規模を誇る住宅街地が誕生し、枚方市は軍需のまちから市民が安心して暮らす住宅都市として生まれ変わりました。このように、爆発による惨事を風化させないよう、1982 年(昭和 57 年)、大阪府内で初めて「非核平和都市」を宣言いたしました。また、爆発から 50 年目の 1989 年(平成元年)に、3 月 1 日を「枚方市平和の日」と定め、毎年さまざまな記念行事を行っております。

特色の第 2 として、早くから非核平和の取り組みを行っておりますが、本年 5 月、ニューヨークで開催された核兵器不拡散条約 NPT 再検討会議に合わせ、本市、竹内市長は日本非核宣言自治体協議会の代表団の一員として参加し、平和市長会議とも連携を図り、核兵器のない世界に向けたアピールを行いました。

おそれ入りますが、説明シート 12 ページの 5 段目、目的をご覧ください。平和に関する事業の目的は、この事業を通じて市民へ恒久平和、基本的人権の尊重などの啓発を行い、平和な社会を実現することです。

次に、事業内容として、平和の日記念事業、平和に関する啓発事業、非核平和都市宣言推進事業の関連する 3 事業を取り上げました。説明資料として、14 ページの 2009 年度という資料をご覧ください。この資料は、3 月 1 日枚方市平和の日記念事業や平和資料室特別展事業などイベントを中心にこの事業の取り組みをしております。事業の参加者数は、おおむね 3,000 人から 4,000 人になっております。なお、資料には掲載しておりませんが、これ以外に実施している事業につきましては、小学生、中学生、市民団体等を対象に市内戦跡、平和施設を見学する平和学習会の実施、日本非核宣言自治体協議会の役員会議・研修会や総会出席の報告、平和団体による平和講師への支援と激励、市内戦跡及び平和資料室など維持管理調査、それから啓発冊子や資料作成等が事業内容と

なっております。

次に、目標と評価ですが、資料 13 ページのシートの成果目標をご覧ください。平和に関する事業の目的は、市民が日常生活を営む上で、平和な社会を築き実現し、そして維持していくことが最も重要であると気付き、共感していったこととございます。

続いて、自己評価は、戦跡リーフレットの作成等、市内戦跡を活用していくこと及び国内外で実績と話題性のある日本非核宣言自治体協議会や平和市長会議等連携し、本市の平和施策が広域的な事業であるということを確認しております。

次に、今後の事業の方向性ですが、基準事業に加え、市内の戦跡を活用した見学会イベントを実施する等、特色ある事業にしてあります。また、日本非核宣言自治体協議会や平和市長会議と連携を行い、原爆資料展等核兵器のない世界の実現に向けた地道な事業を実施してまいります。

最後に、事業実施後の評価とその対応ですが、現在、参加者アンケートを実施し、得られた結果から事業の評価を行い、次回に反映しておりますが、各事業に参加されていない市民の意向を把握することについて考えております。今後とも積極的に事業推進に努め、また、効率・効果的な事業となるよう、関係各団体さんと協力連携してまいります。以上でございます。

(コーディネーター)

ありがとうございました。ちょっと私の方から、共通意識を深めるためお聞きしたいんですが、13 ページで成果目標に対する事業の自己評価という説明がありましたが、そこに書いてある、目標達成に向けての色々な事業を展開してるというのは、この中でわかります。その一定レベルの成果も上がってという認識をして、その検証はアンケート結果からも伺えると書いてございますけど、これは具体的に説明していただけますか。どんなレベルの成果が上がって、アンケートからどんな結果が出ていたのか。

(説明者)

補助資料 14 ページで各事業を書いておりますので、ここをご覧になっていただきまして、アンケートの紹介をさせていただきます。

まず、一つ例ですが、3月1日のアンケートなんですけども、講演会 144 名の方が参加しております。アンケート回収は 98 人、回収率は約 7 割ですけど、その中では「とてもよかった」、「よかった」、「普通」、「あまりよくなかった」、「よくなかった」、「記入なし」という項目でアンケートを取っております。それで「とてもよかった」、「よかった」という 2 つの項目で約 9 割以上の方が言われました。それから、年齢構成ですけど、20 歳未満から 20 歳、30 歳、40 歳、年代分けにアンケート取っております。参加者の方につきましては、30 代から以降、一番多い方が 60 代、70 代の方が約 6 割ということとございます。それから、記述内容につきましては、講演の内容につきま

してボランティア活動とか人の痛み、苦しみを肌で感じるしかない、そういう内容とか、あるいは守らなければならないということでございます。

(コーディネーター)

今、私がお伺いしたかったのは、市が平和に関する事業というのを2,000万円くらいかけて展開している中で、平和の世界を築くことが大切であるということを実感していただくんですね。それを目標に対してどういうレベルで上がってきて、どのようなアンケートでそれを分析したのかということを伺いたかったんですが。アンケートの内容ではなくて、分析についてです。

(説明者)

アンケートで得られたものにつきましては、この内容ですが、私どもの方で一旦評価しております。ただ、今、申し上げましたように、ほとんど「よい」という評価でございますので、そこから次につなげることにしましては、今言っていた意見も採用しまして、これが次に臨んでいくような事業として適正であるかどうかということがこのアンケートしか今出来ませんので。そのような具合です。

(コーディネーター)

今後、参加者以外のアンケートも取るという表明はされてないものですから、そこはあえて突っ込まないんですが、当然参加者にとれば「良かった」という意見も多かったと思うんですね。これから平和に対する事業をどういうレベルに市が持って行こうかという、ちょっとここで見ればと思ったんですけど、そういう質問させていただいて。目指すべきところがわからなかったというのが私の質問です。

ご質問ある方、お願いしたいんですが。

(仕分け人)

このシートを見せていただきまして、市民参加や、また、市民との協働による事業に取り組んでいるかということをお聞きします。

(説明者)

先ほど申し上げましたように、市民の方が、市内の戦跡をご覧になりたいということとでございますと、私どもの方が現地を案内させていただきます。また、ここに載せている事業ではありませんが、最近では、地元コミュニティの方が地域と連携いたしまして、市内の戦跡を説明しました。そのときは1日ございましたけど、約1,000名近い方が施設をご覧になりました。以上でございます。

(仕分け人)

それに付け加えまして、作成されているリーフレット等の効果的な活用がどのようにして行われているのか、お聞きしたいです。

(説明者)

これにつきましては、各事業実施のときに配布すること及び各市内の主だった一番中心なところは平和資料室というところですが、ここで1年間を通じてここは展示しておりますので、そこにパンフレットを置いたりしております。

(仕分け人)

3月に講演会を行われていますね。その中で、平和の日記念事業として知名度の高い講師の先生をお呼びして、その中で講演会に市民の方が参加されているのが144名、これはかなり少ないように思います。寂しいと思います、これだけの知名度の先生を呼んで。これは、場所的にも見てますとラポールということなんですが、ラポールの会場でしたら140名ぐらいしか入れないと思いますね。今後、このような知名度の先生を呼んでいただいたら、やっぱり経費払っている中で、何かの事業と合同でできないか、会場もやはり考えないといけないと思いますし、やはり最低500人は入るもう少し有効的な講演会、やはり知名度の高い先生方に来ていただいてやっている中で、140名というのは失礼に当たるし、その辺も市民との共同で進めていけるかというのをお聞きしたいなと思います。

(説明者)

ご質問の方ですけど、私どもの方では毎回事業を行うに当たりましては、市民の方にどのように伝えるかということで、会場あるいはお招きする講師の方、それから事業の内容についてはいつも悩んでいるところでございます。ただ、今おっしゃった質問の中で、人数が少ないということでございます。ただ、私ども枚方市の中で比較的駅から近いとか、あるいは、バリアフリーであるとか、その辺を考えますと、事業の実施が限られてきます。かつ、季節的な事業ということを加えますので、夏に終戦関係、あるいは被爆関係でございますので、年間を通してまんべんなく事業を考えておりますので、今質問の中でもうちょっとまとめるとか、あるいは、もっと多くということでございますけど、その辺は十分配慮して考えておりますけど、より効果的なのというのもこれから考えて参りたいと思います。

(仕分け人)

平和の大切さは誰も否定しないと思うので、目的はいいんですけど、この手の事業の最大の問題は、もともと関心のある人が何度も来て、そうじゃない人はなかなか来ない、

そういうのがこの手の事業は多いと思うんです。ですから、私はどちらかというと、最初から平和が大事と思っている人ばかり集める、こういう箱モノイベントよりも、例えば、市内のすべての小学校とか中学校を対象にした事業とか、あるいは、図書館の近くの展示とかは重要だと思うんですね。ただ、どうしても講演とかいうと、ある程度時間があって、もともと関心が強くて、そういう特定の人ばかりしか来ないと思うんです。ですから、事業の仕分けというのは、そもそも市長公室人権政策室でやるよりも、むしろ教育委員会とか生涯学習の部門で学校教育の中にこういう平和教育の要素を取り込んでいくとか、生涯学習とかそういう住み分けの中で、平和に関する事業をやっていった方がいいんじゃないかと。あえて人権政策室に専従職員を置くくらいだったら、むしろ教育関係の部署でカリキュラムとかの中に教育の要素、平和の要素を取り入れてそういう方向に変えていった方が、すべての子どもが対象になって、将来、大人になったときに平和に関する意識を持ってくれる。毎年同じような人が同じようなイベントに来ているというのは、他の市町村でもこの手のやつは一緒だと思うんで、もともと関心ある人に関しては、ある程度市の仕事よりも、むしろ、例えばNPOとか自発的にやっていただく方にシフトして行って、これまで興味なかったけど、これから興味を持って欲しいなという人を対象するような事業にしていった方がいいんじゃないかと思います。そうすると、講演会に金をかけるよりは全部の小学校、中学校で見れるようなイベントに金をかける方がいいんじゃないかなと、そういうターゲットに対するアプローチのやり方、目的は全然誰一人否定しないと思いますので、アプローチがなんとなく偏ったターゲットなり、偏ったチャンネルでしか届かないんじゃないかなと印象を受けました。いかがでしょうか。

(説明者)

最初、小学生、中学生の教育委員会等の方でということですが、教育委員会の方で聞きますと、枚方市は小学校の修学旅行が広島の方に行くということで、事前、事後で平和活動で行っておられますし、また、学校単位でいわゆる戦争体験者をお招きして、そこでまたそういうもののお話をされているというふうに聞いております。一旦そういうふうな学校の事業がございますので、こちらの人権政策室としましては、そういう意味から、逆に言うならダブらないというようなことを考えておまして、小学生は夏の映画会とか考えております。それ以外の一般の市民の方につきましては、先ほどのアンケートのときに触れましたけども、時間とか、あるいは一日を、あるいは講師の方を分けて配布したという結果でございます。

(仕分け人)

聞けば聞くほど、この部署は要らなくて、むしろこの事業を教育委員会の方にシフトして予算も人も培った方がいいんじゃないかな。例えば、「リロアンドスティッチ」と

か「硫黄島からの手紙」を見せる、こんなのは本当に要るのかということも含めて、もう一回見直して、この事業というよりも、セクションの必然性が私にとっては全然感じられないので、むしろ教育関係の部署に事業ごと移した方がいいんじゃないかと思いません。意見になっちゃいますけど。

(仕分け人)

コストの点なんですけど、直接経費の内訳の詳細をお手数おかけしてお出しただいてありがとうございます。これ一つ加えておきますが、例えば先ほどのハリウッドの映画が出てました、平和ナイトシアターのメセナひらかた会館多目的ホール、これ市の財産でございますと、市が直轄した場合、使用料は払ってるんでしょうか。

(説明者)

いいえ、払っておりません。

(仕分け人)

市民が借りた場合、いくらかかるでしょうか。

(説明者)

今、資料を持ち合わせていませんが有料になります。

(仕分け人)

おそらく一定程度のコストが潜在的に存在する。また、平和ナイトシアターで委託料で映画上映業務が12万6,000円かかっている。参加者が103名、およそ100人としますと、1人当たり1,200円プラス会場使用料ということで、普通の映画館で見るぐらいのものになってしまうと。他方で、夏季平和資料室特別展は共催団体が映画上映を負担したりして、さまざまな借用も無料で、自治体という兼ね合いで費用はかかっていますが、参加するときに、多くの参加人数で割り戻しますと1人当たり30円とかそんな感じ。やはり税金投入ですので、またリピーターがあったり、動員がかかったりとか色々な事情があるかもしれませんが、1人当たり単価というコストで全部の事業をもう一度見るということが可能じゃないかと思うんですが、その点が何かそういうことをやっているおつもりはありませんか。

(説明者)

そうですね、毎回安く上げるということはもちろん考えておりますけれども、現在のところはこういう予算的な配分もありますので、その中でというふうに考えております。

(仕分け人)

非常に平和に対する啓発業務というのは熱心な方とそうでない方の温度差が強く、ご担当室としてすごく苦労しておられるであろうと私は拝察します。例えば、1,000人単位がかかって、全く白地で平和について考えたこともないような人たちにこれだけインパクトのあることができるという資質があるのであれば、あえて打って出るということもあると思うんですね。ですから、どういうターゲットに対して、どのくらいのコストをかけて今年はこれをやってみようとか、毎年毎年、講師を呼んで同じ場所で無料だからといってやってしまうのではなくて、もう少しターゲットを分類して、投入資金をドカンとそこに使う年もあってもいいと思うので、何かそんな工夫があってもいいのかなと。「硫黄島からの手紙」を見る人というのは、おそらく普通の人権団体とかで頑張ってる方々よりは、他の人も多かったと思うんですが、そこにプラスのメッセージが何か付いたかということなんかもありますので、例えば、ここで1,200円以上のお金をかけるのであれば、この上映会の部分、何か前後に、そういうこれただでもいいわけですから、こういうことは聞いてくだされば、このパンフレットに載せての何か合わせ技でおやりになったんでしょうか。

(説明者)

今の平和ナイトシアター等のことなんですけども、資料14ページに特別展ということで3月16日から25日の間にまとめてこの事業を行っております。広報等するときに、一つだけじゃ困るといふ、分かりにくいということがございますので、こちらとしての狙いは、まとめてこういう時期に平和展ということで。

(仕分け人)

民間が映画館でも見られるような映画を税金でやるということであれば、もし、これをやるのであれば、私はこんな映画を見せなくてもいいんじゃないかと思うんですが。悲惨な映画でもありますし。例えば、前後にただでせっかく集まって来てくれるのであれば、何かを少し15分でいいから非常に効果的なプレゼンをパワーポイントを使ってやるとか、何かがなかったらただのパラマキになってしまうと思いますので。これをそういう1人当たりの単価と、その来る人の意識というものに合わせた、もう少し戦略的なことを考えていただいたらと思います。

(仕分け人)

コストに関連してお尋ねしたいんですけど、日本非核宣言自治体協議会とか平和市長会議とか、会議に入られているようなんですけど、こういったところに対する負担金などは発生しないんでしょうか。

(説明者)

はい、日本非核宣言自治体協議会の負担金は年間6万円、平和市長会議につきましては負担金ございません。

(仕分け人)

事業内容について、3点ほどお聞きしたいんですが。まず1点は、恒常的に資料館すべてに設置されていると思うんですが、その内容ですね。例えば、1年間ずっと同じものを展示物をしているということなのか、それともリニューアルをしてるのかという、そういう内容を教えていただきたいということと、それから内向きで枚方市の中に啓発事業としてされていると思うんですけど、外向きに対して、例えば平和友好都市であるとか、そういうような交流事業をされているのかということが2点目。それから、3点目につきましては、やはり人数が非常に気になるんですが、参加人数が増えているとはいえ、啓発事業としてはちょっと参加人数が少ないんですけど、この広報活動としてはどのようなことをされてるか、この3点を教えてください。

(説明者)

まず、1点目の平和資料室なんですけど、通年、禁野火薬庫の爆発ということで通年事業として行われておりまして、今、あと2回夏季の特別展、3月1日に合わせた特別展の2回ですね。このときは、展示内容を変えております。それ以外は、通年同じにやっております。それから、次の質問ということで、平和事業の他市との交流ということですね。これは、私どもの方としましては、先ほどありました平和市長会議、日本非核宣言自治体協議会として、これは総会等出席してるわけなんですけど、ここの中で近隣の市町村と意見交換をしながら事業を進めてるということで、昨年度は夏季のヒロシマ・ナガサキの資料展、これは八尾市に資料を置いてますので、そこから借りている。日本非核宣言自治体協議会の資料を借りております。それから、最後に参加人数のことなんですけど、通常市の事業としますと、広報誌、FMひらかた、それからあと、場合によってはミニコミ誌等にお問い合わせというような形もございますけど、一般的には広報それからあとはチラシを各生涯学習施設等に配布しております。こういう内容でございます。

(仕分け人)

補足なんですけど、その平和友好交流、そういった他市との交流が市民レベルでは行われていないということですか。

(説明者)

そうですね、そこまでは至っておりません。



(仕分け人)

最初にちょっとお話が出たんですけど、やってらっしゃる事業内容のことで、小・中学生や地域コミュニティの方たちを対象に戦跡のツアーをされているということで、これは職員の方が付いて案内をされるということでもよろしいですか。

(説明者)

頻度はたくさんございませんけれども、そのときは職員が付き添うということになります。

(仕分け人)

例えば、これを実際に、もう皆さんご高齢の方ばかりだと思うんですけど、実際に戦争体験をされた方とか、そういうような、例えば広島とか長崎とかそういうようなところというのは、実際、被爆された方とか体験された方というのがいらっしゃって、修学旅行なんかで行ったらお話とかしてくださって、すごく平和って大切だなって改めて思うようなことがあるんですけど、枚方市は戦跡ツアーというのをされているのであれば、そういうような検討とかされたことはないですか。

(説明者)

広島、長崎の被爆体験者のお話というのは、今まで行ったことはございませんけれども、市内で戦争に携わってた方につきまして、市民対象にしまして、学徒動員等された方を市にお招きした場で講演会とかはしております。

(仕分け人)

実際戦跡とか現場を回るというようなことも、市内に住んでらっしゃる方でしたらそう特別なことではないのかもしれないんですけど、やはり小・中学生、そういった子どもたちにとってはとても貴重な体験だと思いますので、本当に平和はいいことだというような意識を持ってもらうとかということであれば、実際、学校に来てお話をさせていただくというのも一つの手なんでしょうけど、そういうせっかいいツアー等をされているのであれば、そういうところで活用というような言い方は変なんですけど、そういうような方たちに来て実際のお話をさせていただくというのも、映画にも勝るとも劣らないそれ以上の効果があるんじゃないかなと思いました。

(仕分け人)

本来この項目には質問させていただこうと思ったんですが、山口さんが非常に的確な、私が思っていたことと同じ質問をされたのであえて言いませんけど、その質問のお答えの中で、やはり学校教育等でやっているのと重なるので、あえて違うことをしていると

というご意見だったので、それをお聞きしたのもういいかなと思います。この事業は、この部門ですべきじゃないですね。意見になってしまいますけど、非核宣言都市枚方とか平和に対する学習を非常にやっている枚方というまちの市民であるという誇りを私は持っていたんですけども、本当にこの平和事業の色々な講演会とか展覧会とか見せていただきましたけど、それを他市に誇ろうという気にはなりませんでした。人件費もたくさんかかってますし、結論を言うようで悪いですけど、ちょっとこの予算を教育委員会にもシフトして、本当に平和というのを市民に根付かせるように、教育という観点から入っていくしかない段階にもう来ているような気がするので、是非ともそういうふうにしていていただきたいなと思います。

(仕分け人)

このカリキュラムというか中身を見て思うんですが、実は平和教育というのは日本だけでやっているわけじゃなくて、例えば、ユネスコとかが国際的にどうやったら平和教育で効率的に教育ができるかというふうにやっているんですけど、そういう最新の研究とかが全然こちら辺には踏まえてないんだらうなという感触を受けます。私も大学院で教育学を勉強してたんですけど、例えば、戦争と平和と言うんだったら、今このときでもスーダンでは戦争が起きている、アフガンで戦争が起きている、イラクで戦争が起きている、日本の何十年も昔の戦争を風化させない努力も必要ですけど、今、このときも行われている戦争とかに関して、多くの市民とか子どもたちに知ってもらう、そういう努力もこの平和事業の中であってほしいんじゃないかなと。ニュースで実際流れてるわけですから、そういう非常に視野の狭い平和事業になっているなという印象を受けるので、そういう工夫もあった方がいいんじゃないかなという気がします。その手のマニュアルみたいなもの、実は結構あるんですけども、色々なものを参考にして、よりよいものを作ってほしいなという気はします。

(説明者)

今の世界に向けたということなんですけど、21年度事業でございますので、前年20年度のときはアフガン等取材に行かれた方々の報告、それは、3月の平和の日の事業の中では行っております。

(コーディネーター)

では、評価シートの方に記入をお願いします。この事業について、市が関わるべきではない、目的が達成してるようだということだったら不要という判断かと思います。2番の 民間ということで、民間の方が効率的だという場合。もっと広域的に行うべきであればという場合には、2の方になるかと思います。色々な見直しをやっていくような必要があれば、3番の要改善と。現行でよければ4番ということになります。一

応そのような内容での仕分けをお願いしたいと思います。

それでは決を採りたいと思います。事業番号2番、平和に関する事業について行いたいと思います。この事業について、廃止すべきということで、不要だと思われる方。2番の民間で行うべきだとおっしゃる方。国・県・広域で行うべき。枚方市で行うけれども改善が必要だと、おっしゃる方。

(仕分け人)

両方はいいんですか。

(コーディネーター)

両方はちょっと。

(仕分け人)

だめですか。分割したいんですけど。

(コーディネーター)

事業を分割するということですか。

(仕分け人)

そうですね。

(仕分け人)

それは私も同じ趣旨ですね。一部はやっぱりもっと民間でやってもらっていいと思うんですけど、市が中核にある部分がギュッと縮小される。

(コーディネーター)

例えば、この事業内容での分割はできるってことですか。例えば、平和記念事業は民間で、特別展示事業は市がやるとかっていう、分割ですか。

(仕分け人)

発言していいんですか。

(コーディネーター)

いいですよ、どうぞ。

(仕分け人)

私はこういう事業をNPO化して、そこに委託をしてきめ細やかにやる。

(コーディネーター)

それは、平和に関する事業全般としてということですか。

(仕分け人)

全般、まあ講演会とかイベント物ですね、そういうところとはまた別に、いわゆる学校園に対する平和教育という部分を教育委員会の方にシフトしてもらって。

(コーディネーター)

それは市が担って。

(仕分け人)

それは市が担う。

(コーディネーター)

そうすると、この事業についての再構築というところですね。

(仕分け人)

そうですね。

(コーディネーター)

そうした場合は、例えば不要という判断になってきます。一度この事業をやめて、もう一度、組み直してくれというような結論になりますけども。事業の分割というのは、例えば、同じ1つの項目の中に異なる性質の2つの事業がある場合、それを1つは不要、1つは大切だという判断が出来ますけど、この事業の中身じゃなくて、担うべき姿を分けるということになれば、事業の再構築ということになりますので、それは不要という判断にはなりません。そのような内容での仕分けでよろしいですか。

この事業、今、申し上げましたように、事業が要らないというケースも不要です。例えば、この事業について、担い手を含めての再構築が必要だということであれば、不要という判断をいただきたいと思います。それから民間が維持する場合、例えば民間にする場合は民間にし、広域だったら国・府・広域。あとは改善ということになります。

それではもう一回お願いいたします。この事業について1番不要(1人)。2番 民間(0人)。2番 国・府・広域(0人)。3番 枚方市・要改善(5人)。それでは、枚方市・要改善ということになります。要改善ということでご意見をお伺いします。

(仕分け人)

私も加藤さんや山内さんのご主張にすごく共鳴はするのですが、市長部局として、一定程度の事業の必要性があることもまた確かだと思っております。

ただ、もっとコストがかからない方法とか、あるいはコストをかけるのであれば、よりインパクトのある方法が工夫できる。そのときのメルクマールは、参加者1人当たりの税金投入額、これをしっかり開示しながら、それだけのコストを1人当たりかかるのであれば、じゃあこういう人が集まらないとだめだとか、こういう人が来るんだったらこういうことをやろうとか、というのは出てくるんじゃないかと。41万市民への波及というのは、なかなか容易ではないとは思いますが、是非、多くの、先ほど山内さんからご指摘ありましたけども、例えば、アフガンなんかでも自衛隊の人が、給油活動で出て行ったりしている。あえて言えば、そういう人たちの主張を聞いてみてもいいかもしれませんが、もっと大きなレベルで柔軟に取り組んでいただいたら、もっと大きな層が取り込めるんじゃないかと思っておりますので、是非、大変とは思いますが、リピーター以外の方々への波及努力をしていただければと思います。

(コーディネーター)

じゃあ、少数意見で加藤さん、お願いいたします。

(仕分け人)

そういう判断で不要に当たるということで挙げたんですけど、不要という言葉は本当は使いたくないですし、実際には、こういう問題に取り組むのは市長公室であるべきだというふうに思っていますので、先ほど言ったようなNPOの団体を作ってそれに支援をしていって、色んな企画をして展示会とかイベントをしていただく、また教育委員会に予算をシフトしていって、学校園に対する平和教育を安定化させていくと、それによって枚方市の平和思想というのがレベルアップしていくということ、全体的に見つめていく立場で、そういうスタンスで、市長公室があっただきたいなと。市長公室がバッテリーボックスに入ってボールを打ってるから、どうしても何となくいかん部分があるんじゃないかなと思います。できたらベンチでサインを出していただきたいというふうに思うのが私の意見で、不要というところで選択で手を挙げてしまいましたけども、この事業が不要と思っているわけではありません。今の事業形態をちょっと変えて欲しいなということです。ご理解いただきたいと。

(コーディネーター)

ありがとうございました。今ご意見にあったように、この事業を否定するものではないということですので、その辺を踏まえていただきたいと思います。全体の事業を見ても、非常に参加者が少ない中で、本当にこの効果が出るかどうかということで、

私が最初に質問したのはそういうことで、効果検証どうやっているんですかというのを質問したかっただけですね。そしたら、お答えなかったのがちょっと色々展開できなかったですが、目的としては十分皆さん認識してますので、それに対する手段として果たして適切かどうか、そこをよく見直す中で事業を展開していきたいということは、やはり検証をしないとできないということですので、皆さんご意見にあったように、色んな事業について、さまざまな検証する中でもう一遍再構築する必要があるんじゃないかなと、そのような意見だと思います。

では、このような結果となりましたけども、仕分け人のご意見、それから議論のプロセスなどを含めて、事業全体の見直しなどを行っていただければと思っております。

それでは事業番号2番、平和に関する事業についてはこれで終了したいと思います。どうもありがとうございました。